

摘 録

会 議 名 平成30年度第1回刈谷市歴史博物館協議会
日 時 平成31年2月22日(金) 午後2時00分～4時30分
場 所 歴史博物館 1階講座室
出 席 者 協議会委員：受井美緒、清水英弥、中村雅至、成田年秀、西宮秀紀、堀江登志実、
真島聖子、山田孝、山田峰子、吉田俊英(五十音順、敬称略)
事務局：西村日出幸(市民活動部長)、杉浦隆司(文化観光課長)、加藤隆司(歴史博物館長)、近藤亜由子(歴史博物館長代理)、鶴飼堅証(専門員)、五十嵐正也(学芸員)

内 容

1 館長挨拶

2 委員自己紹介

3 議題

(1) 会長及び会長代理の選出

委員の互選により、西宮秀紀委員が会長に選出された。

西宮秀紀会長の指名により、吉田俊英委員が会長代理に選出された。

(2) 刈谷市歴史博物館について(概要説明及び見学)

施設概要と基本運営方針を説明したのちに、館内見学を行った。

以下、委員からの代表的な質問及び意見である。

(A委員) 市内小3の学習で市の移り変わりをやっている。およそ100年前から現代へどのように刈谷市域が変わっていったかを教えている。教室の中で100年の時の流れを具現化するのは難しい。常設展の展示や資料貸出等なにか対応してもらえるとありがたい。

(B委員) 刈谷の中心地ばかりが取り上げられがちだが、井ヶ谷のような北部や野田、小垣江などの南部に目を向けた展示をしてほしい。

学芸員が研究したことを市民に発信するような仕組みをしてほしい。開館2年目以降でよいので、紀要という形で出してほしい。

(C委員) 常設展の図録はできるだけ早く出すべきである。

(B委員) 喫茶のような食べる場所や休憩するところがないので、近隣の店の案内パンフレットを作るべきである。

(D委員) 図書収蔵庫のキャパシティはすぐに足りなくなると思う。10年～20年先には文化財収蔵庫もいっぱいになると思うので、早めの対策を。

(E委員) 展示台等もすぐにいっぱいになるから対策を考えるべき。

(D委員) 展示台は高価なので、企画展ごとにいちいち新調しない。ある程度の数と種類の展示台を保管して、展覧会ごとに合うのを見つけ出すのが普通である。その保管場所を考えてほしい。

- (E委員) 駅からのアクセスがよくない。
- (B委員) 小垣江線以外のバスも寄るようにすべき。北部や東刈谷の人が来やすいように。
- (F委員) 本数以外にも時刻の見直しを。電車との接続をよくすべき。今だと逢妻駅に電車が着いて25分ぐらい待たないとバスが来ない。

(G委員) 若い子は twitter や LINE、インスタグラムを使っている。SNS でもっと積極的な情報発信を。

(3) 平成31年度 刈谷市歴史博物館事業計画について
事業説明したのちに委員より質問や意見が出た。

- (C委員) 図録を発行するレベルの展覧会を年4回も行うのは多すぎる。普通は年2回である。
- (E委員) 巡回展を検討すべき。
- (D委員) 新聞社が持ち込んだ企画を買い取ればよい。広告宣伝も含めてしっかりしてくれるので、取り込んだらよい。自主企画だけで企画展をやり続けるとネタも金もなくなる。
- (C委員) もし年4回企画展をやるならば、そのうち3つは軽めでよい。濃淡をつけるべきである。図録も毎回出すのではなく、リーフレットレベルでよい。
- (B委員) 今のローテーションで行けば、各学芸員が2年に1回は企画展を担当することになる。学芸員がしっかり調査・研究した展覧会をするべきである。そうすると、各学芸員が3年に1回ぐらいのスパンで展示を企画するのがベストである。
- (C委員) 学芸員にプレッシャーを与えないように。

4 その他

平成31年度の協議会の予定を伝え、最後に全体をとおして、各委員から質問や意見があった。

- (E委員) 資料収集のための予算は、積極的に資料は買うべきである。
- (B委員) 博学連携は大事である。博物館に学校の先生を入れ小中学校と連携してほしい。
- (E委員) 愛知教育大学をはじめとして、大学と連携してほしい。プロジェクトチームを作ったり、学生ボランティアを募集したり、学生割引をするなど教育普及に力を入れるべき。
- (C委員) 博物館がオープンしたら、どんな手を使ってでも集客してほしい。来館者数は行政のメルクマールである。学芸員実習をバーターにして、学生の来館者数を増やすなど、うまくやってほしい。
- (D委員) 展示の幅が広がるため、登録博物館や公開承認施設を目指す方向でこれからがんばってほしい。